

平成 26 年度 第 1 回目

篠原東遺跡群現地説明会資料 No. 3



鬼瓦の破片（I 地区出土・戦国時代）

日時

平成 26 年 10 月 19 日（日）10 : 00～

場所

糸島市篠原（前原東土地地区画整理事業地内）

糸島市教育委員会

1. はじめに

篠原東遺跡群の発掘調査は、前原東土地区画整理事業に伴って実施しています。広大な面積があるため、平成 24 年度に調査を開始し、平成 28 年度まで行う予定です。

今回の現地説明会は、今年の 4 月から行った調査成果と新たに判明した内容について公開します。

2. 篠原東遺跡群 I 地区の調査

I 地区は、北東部に黄褐色粘質土おうかつしよくねんしつどの台地部分があり、西部から南部にかけては砂やレキねんしつど、粘質土ふしよくだ、腐植土いくえなどが幾重にも堆積する沖積地たいせきとなつています。中世の時期においては、弥生～古墳時代ごろに堆積したと考えられる暗灰色砂かいしよくと暗灰色粘質土が生活面となつていますが、数十センチ掘り下げると水が湧くほど地下水位が高いため、あまり日常生活に向けた土地とは言えません。しかしながらこの豊富な水のお蔭かげで、木製品くさが腐らずに残っており、木簡もつかんや建物の柱など貴重な資料を発見することができました。

(1) 古墳時代の遺構

調査区南東側では、幅 2.7m、長さ 67m の流路りゅうろが確認できました。流路の方向は、南東から北西に向かって流れています。埋まっている土は小礫しょうれきを多く含んでおり、水の流れがあつたものと推測すいそくされます。出土した土器から古墳時代中期と考えられます。

(2) 平安時代の遺構

平安時代に入ると、調査区南側で建物群が、調査区東側に旧河川が見られます。建物群は西側と東側に分かれており、西側建物群は掘立柱建物ほったてはしらたてものが 3 棟、東側建物群は 2 棟で構成されています。

西側建物群は、柵列さくれつをもつ 2 間×4 間の建物を中心に、他の建物が近くに配置され、東側建物群は、並列して 2 棟配置されています。この 2 つの建物群は、建物の長軸の向きが異なるため、建てられた時期が違う可能性があります。

ます。

一方、旧河川については、川砂^{かわずな}によって埋まっており、土師器^{はじき}の椀^{わん}や須恵器^{すえき}の甕^{かめ}の破片が出土しました。この河川は中世には埋没して、のちに流れを変えたことが明らかとなっています。

(3) 戦国時代の遺構

戦国時代に入ると、居館が造られます。昨年度調査を行った隣接するC・Dの両地区では、居館を囲む濠^{ほり}の一部が検出されていましたが、今回のI区の調査により、全体像がほぼ明らかとなりました。屋敷地は方形で、およそ70m四方あり、2～4重の濠で厳重に守られていたことが分かりました。濠の内側の屋敷地には合計5棟の掘立柱建物があり、最も大きいものは平面で約8.5m×3.5mの規模があります。周囲の濠の中からは鬼瓦^{おにがわら}などが出土しており、かつて、瓦葺^{かわらぶき}の建物があった可能性があります。

今回発見された居館の南東、直線距離で約1.4kmの場所には、戦国時代の平地居館が良好な状態で残る「波多江丹波屋敷^{はたえたんばやしき}」があります。この屋敷は敷地の外側を囲む溝や土塁(どるい)まで含めると現状でおよそ70m四方となり、ほぼ同程度の規模となります。波多江氏は戦国期において糸島で勢力を張った原田氏の一族であり、この地域における有力な国人^{こくじん}勢力でした。今回全体像が明らかとなった篠原東遺跡群の屋敷の主も、規模からみて、同程度の力をもった人物であったと考えられます。

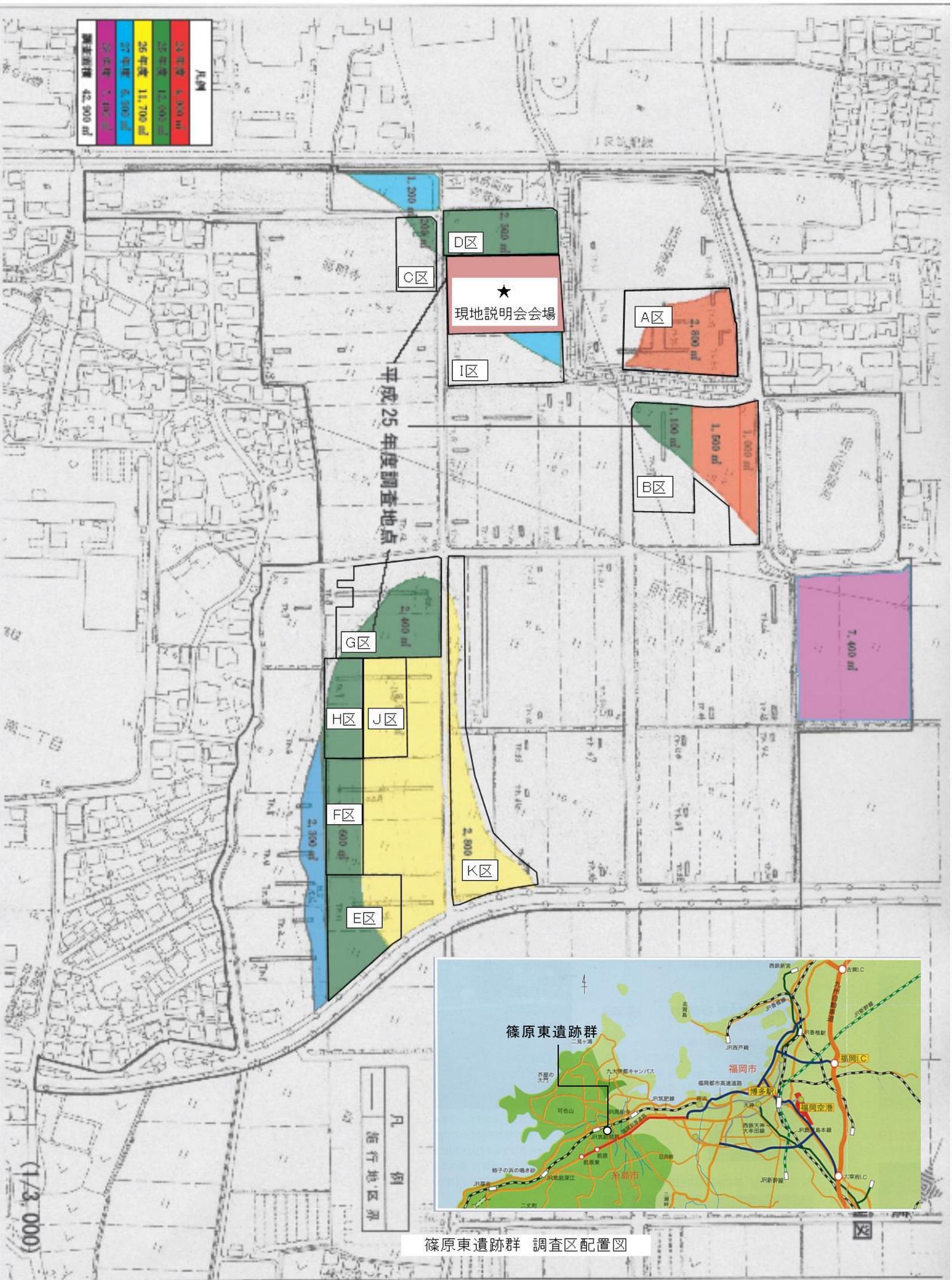
【※国人…在地の領主層などを指す】

4. まとめ

今回の説明会では、古墳時代と平安時代、戦国時代の遺構と遺物について紹介しました。全体的に遺構の残りがあまり良くはなかったもののこの周辺に古墳時代～戦国時代まで人々が暮らしていたことが分かりました。

少しずつではありますが、篠原地域の歴史が明らかとなってきています。

凡例
24年度 4,900㎡
25年度 12,500㎡
26年度 11,700㎡
27年度 6,000㎡
28年度 1,000㎡
調査面積 42,900㎡



篠原東遺跡群 調査区配置図



戦国時代の館跡
(濠の内側)

原前前
所

D地区

溝状遺構 (濠)

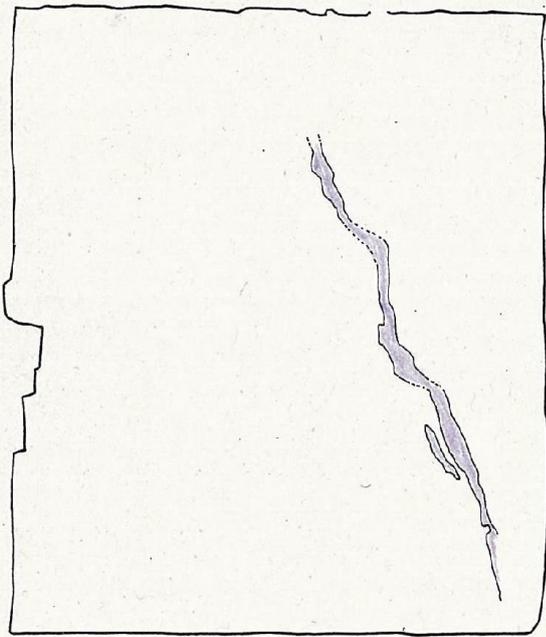
古墳時代の流路

平安時代の掘立柱建物

溝状遺構 (濠) 出土品

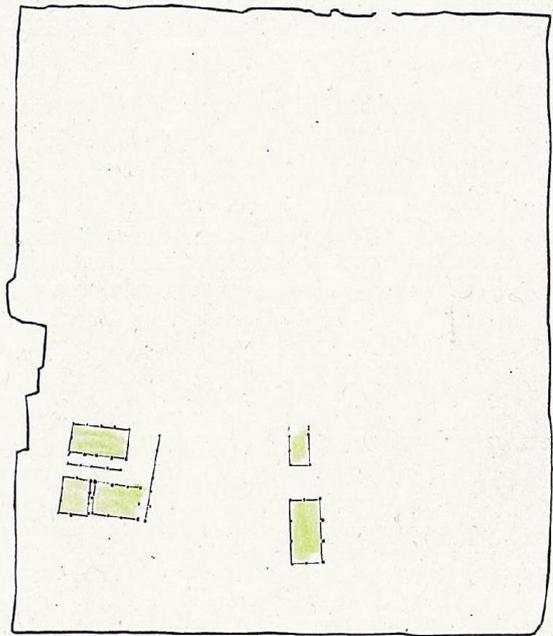
<上: 杓文字、下: 土器と鬼瓦>

篠原東遺跡群 C・D・I 区の遺構の配置 (1/600)



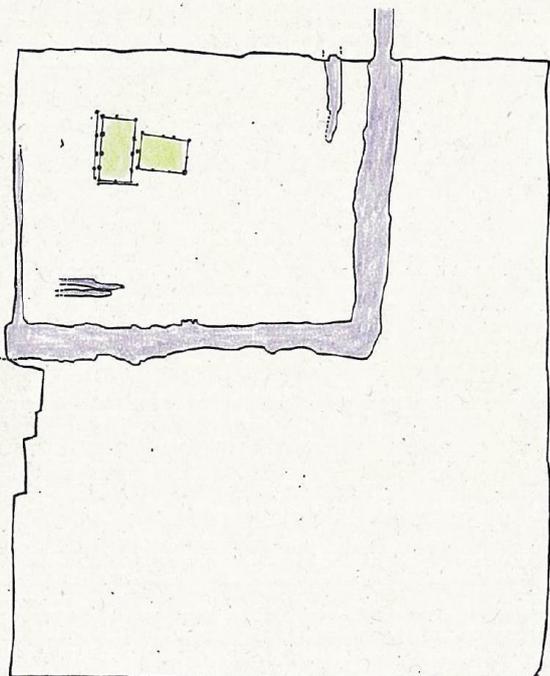
(1) 古墳時代

調査区の南東側に幅 2.7m の自然流路が流れる。
流路の中からは、古墳時代中期の土器が出土。



(2) 平安時代

調査区の南側に掘立柱建物が建てられる。
西側に 3 棟、東側に 2 棟の合計 5 棟があり、西側の
建物には柵列が付属する。



(3) 戦国時代

調査区の北西側に方形に巡る多重の濠が掘られる。
濠の内側には、掘立柱建物が位置する。

篠原東遺跡群 I 区の移り変わり

(各図とも 1/1000)



主な出土品

上段左：鉛玉（火縄銃の玉、戦国時代か？）

上段右：銅銭（江戸時代か？）

中段：石匙（弥生時代？）

下段：石鏃（弥生時代）

現地説明会資料は後日、糸島市文化課のホームページ内にて公開する予定です。また、以前行った第1回目と第2回目の資料のデータもあります。

カラー写真にて掲載しておりますので、ぜひ、ご利用ください。

HPアドレス <https://www.city.itoshima.lg.jp/soshiki/33/>